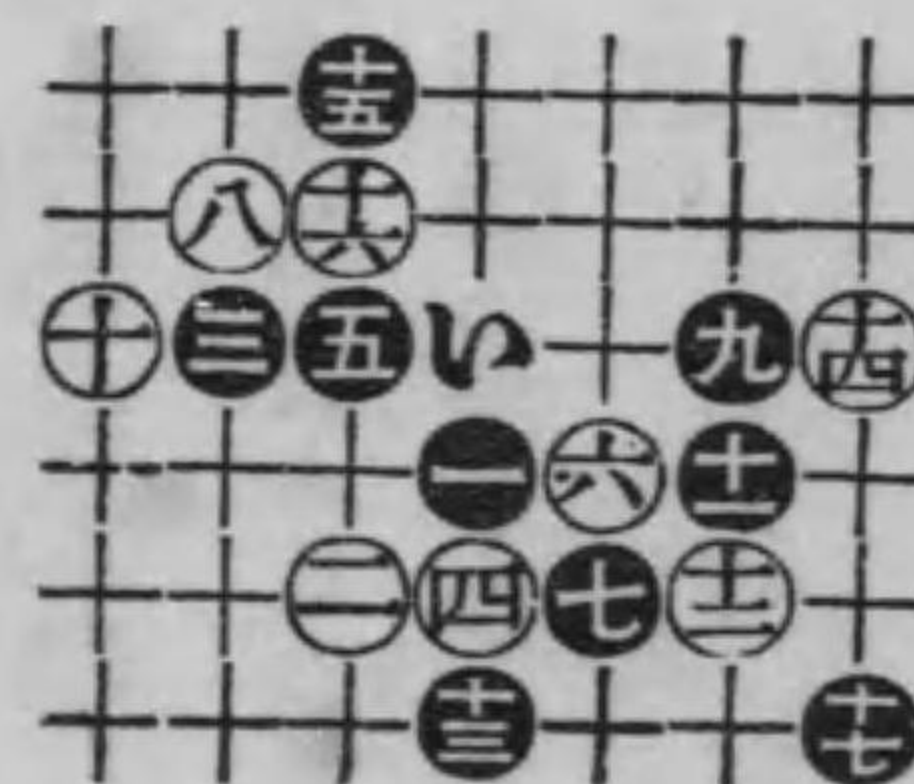


第三



第四



(第三) 珠形の應用

本圖の九の組立は十一の時十一に當てられて混戦形となる故七を九に擲すべきであるが無暗に彼處へ打て何處へ擲てと矢鱈に説明する譯ではなく根據があつて主張するので夫れは他の定珠の形を應用して



當て簾めるのもある本局も其一例で『い』圖は斜引花月の形『ろ』圖は本局の四七三八を取り去り同一の形に歸せしめた者である

い 圖



ろ 圖



(第四) 珠形應用の誤解

併し珠形の應用には敵の活聯等に注意をせねばならぬ甲圖は斜引の定石であるから乙圖の一二を無き者と見て同一に七を打つのはいかぬ能く馬が物を覺えた云ふが夫れで二が死んで居る爲に丙圖の如く先手三々負となるのであるから七は八へ擲つがよい何故かと云ふと